

令和 8 年度事業計画

介護老人保健施設あじさい

○入所部門（短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護含む） 定員 80 名

令和 7 年度 途中実績(2 月末時点)

入所 68.7 名（平均介護度 2.7）

在宅復帰率 39.5%（退所先内訳 自宅 19.0%、有料老人ホーム 19.8%、医療機関 42.9%、
老人福祉施設 15.1%、死亡 3.2%、その他 0%）

短期入所 0.8 名（平均介護度 2.8）

合計平均利用者数 69.5 名 稼働率 86.9%

令和 8 年度 数値目標

稼働率 95% 76.0 名

在宅復帰率 35%以上

要介護 4・5 割合 35%以上

〈参考〉

令和 7 年度 数値目標

稼働率 90% 72.0 名

在宅復帰療養指標 60 以上

在宅復帰率 30%以上

目標

○ 様々な取り組みが実を結び令和 7 年 3 月より強化型への移行を果たせたが、稼働率については未達に終わった。今後は強化型の維持、ひいては超強化型移行に向け取り組みつつ、一番重要な稼働率の向上を目指す。

具体策

- 空床状況の可視化の徹底
- 相談開始から入所可否判断までのリードタイムの削減

○通所リハビリテーション部門（介護予防通所リハビリテーション含む） 定員 60 名

令和 7 年度 途中実績(2 月末時点)

要介護 32.1 名（平均介護度 2.7）

要支援 7.6 名（平均介護度 0.4）

合計平均利用者数 39.7 名 稼働率 66.2%

令和 8 年度 数値目標

平均稼働率 75.0% 45 名/日

〈参考〉

令和 7 年度 数値目標

平均稼働率 75.0%

45 名/日

目標

- 近隣の居宅事務所への情報提供の充実を図る。

具体策

- 居宅事業所への定期訪問を行う。
- ケアマネ向けに、リハビリ見学会や勉強会を企画開催して、知ってもらう機会を持つ。

ねむのき令和8年度事業計画

【部門】介護老人福祉施設・短期入所生活介護（介護予防含む）

令和7年度数値目標

- ・従来型1日の平均利用者数 48名 稼働率 96%
- ・ショートステイ1日の平均利用者数 8.5名 稼働率 85%

実績（令和7年4月～令和8年2月）

- ・従来型1日の平均利用者数 44.76名 稼働率 88.9%
- ・ショートステイ1日の平均利用者数 9.03名 稼働率 90%

令和8年度部門目標

・職員間の相互理解と協力体制を強化し、働きやすく質の高い介護サービスを提供できる職場環境を形成する。

令和8年度数値目標

- ・従来型1日の平均利用者数 48名 稼働率 96%
- ・ショートステイ1日の平均利用者数 9名 稼働率 90%

【部門】地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

令和7年度数値目標

- ・1日の平均利用者数 19.0名 稼働率 95%

令和7年度実績（令和7年4月～令和8年2月）

- ・1日の平均利用者数 18.83名 稼働率 94.1%

令和8年度部門目標

・入居者一人ひとりの思いに寄り添い、職員間で情報共有しながら、安心して過ごせる生活環境づくりに努める。

令和8年度数値目標

- ・1日の平均利用者数 19.0名 稼働率 95%

【部門】通所介護（総合事業含む）

令和 7 年度数値目標

- ・稼働率 77%

実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月）

- ・平均利用者数 24.9 名 稼働率 71.1%

令和 8 年度部門目標

- ・真心のサービスと地域に根差した安心のサービスを目指す。
- ・自宅で安心して生活が出来るようにリハビリを通して体力の維持向上を目指す。
- ・身体機能向上を図り、今の生活を支えるデイサービスを目指す。
- ・職員一人一人のスキルアップを目指す。

令和 8 年度数値目標

- ・稼働率 75%

【部門】訪問介護（総合事業含む）

令和 7 年度数値目標

- ・時間数 300 時間／月

実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月）

- ・時間数 298 時間／月

令和 8 年度部門目標

- ・利用者一人一人の個別ケアを実施し、安心して在宅生活が送れるよう笑顔で支援する。
- ・関係者との連絡をスピーディに行い、支援者間の信頼関係を築く。
- ・身体介護の利用者獲得に向けた営業活動。

令和 8 年度数値目標

- ・時間数 320 時間／月

【部門】居宅介護支援

令和 7 年度数値目標

- ・介護給付 月平均 175 件
- ・予防給付 月平均 20 件以内

実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月）

- ・介護給付 月平均 162 件
- ・予防給付 月平均 29.8 件

令和 8 年度部門目標

- ・利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援する。
- ・新規利用者の獲得に努める。
- ・地域社会への貢献を行う。

令和 8 年度数値目標

- ・介護給付 月平均 170 件
- ・予防給付 月平均 40 件

【部門】認知症対応型通所介護（介護予防含む）

令和 7 年度数値目標

稼働率 75%

実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月）

- ・稼働率 54.52%

令和 8 年度部門目標

- ・昭和の回想空間を味わい楽しんでもらいながら、学習療法や回想法などを行い、個性を活かせるようなひとりひとりに合ったサービスを提供していく。
- ・サービス利用中にニーズの高い運動や体操をより多く取り入れることで、身体機能や筋力維持に努めていく。
- ・祭りや協議体など地域行事への参加や忘れんぼカフェを定期開催することで、地域との関わりや繋がりを深めていく。
- ・キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座などに積極的に参加し、貢献していく。

令和 8 年度数値目標

- ・稼働率 65%

こでまり令和 8 年度事業計画

令和 7 年度実績 (令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月)

入居稼働率 95% (令和 7 年度数値目標 98%)

月の平均利用者数 48.3 名 (前年度 48 名)

平均介護度 2.1 (前年度 1.9)

令和 8 年度数値目標

入居稼働率 96%

部門目標

介護目標 ～ゆとりと喜びのある暮らしをともに～

「ゆ」 ゆっくり丁寧に向き合う

「と」 環境をととのえる

「り」 相手を理解する

看護目標 入居者様が安全で安心して生活できるよう健康管理を行う

令和 8 年度 LaKiKi 事業計画

令和 7 年度目標

総稼働率 60%以上 毎月 270 万の売り上げを目指す。

令和 7 年度実績 (R 8.2 月まで)

総平均利用者数 12.6 名 午前平均利用者数 13.0 名 午後平均利用者数 12.3 名

総延べ利用者数 5831 名

総稼働率 63.1%

令和 8 年度目標

- ・総稼働率 65%以上、毎月 280 万の売り上げを目指す。
- ・平均利用者数 13 名、総延べ利用者数 6682 名を超えるようにアプローチしていく
- ・利用者の継続利用に繋げ、満足度向上に向けたリハビリを提供出来るようスタッフ間での連携を密にしていく。
- ・利用者増加による業務のスリム化、業務の効率化を図れるよう話し合う機会を積極的に行う
- ・各法人内の事業所間の連携を積極的に図り、各事業所の売り上げに貢献できるように行う

令和8年度 生計困難者に対する相談支援事業

(ふくおかライフレスキュー事業) 事業計画書

社会福祉法人 那珂川福祉会

1 はじめに

社会福祉法人那珂川福祉会(以下、法人という)は、第二種社会福祉事業「生計困難者に対する相談支援事業」(ふくおかライフレスキュー事業)を実施する。

この事業は、社会福祉法人として目に見える形で公益活動を実践するため、地域の援護を必要とする方に対する相談活動を活発化し、関係機関との連携を十分に行い、相談活動を行う中で、援護を必要とする方の心理的不安の軽減を図とともに、必要な制度やサービスにつなぐこととする。また、生活保護等の既存制度では即応できない方で、経済的困窮により生活必需品や社会的サービスの利用が阻害されている方がいる場合、その費用等の全部または一部を現物により支援する経済的援助を行う。

2 サポーターの配置並びに総合生活相談活動

ふくおかライフレスキュー事業を実施するために、ねむのきにサポーターを配置し、地域で生活課題を抱える方の相談が起こった際に対応し、課題の解決に努める。

3 経済的援助

援助を必要とする方からの相談を重ねる中で、経済的援助の必要性を判断したサポーターは、相談内容に関する資料を作成し、ねむのき施設長(以下、施設長という)に報告するものとする。施設長は、サポーターからの報告に基づき経済的援助の可否を決定する。

4 地区連絡会、研修会への参加

サポーターは、課題の共有や相談援助技術の向上を目的として各種研修会等に参加する。

- (1) サポーター養成研修会
- (2) 各地区連絡会
- (3) 相談援助技術研修会(事例検討会)

令和8年度「ゆめ広場」の事業計画

事業の背景及び目的	近年の日本ではこども9人に1人が相対的貧困状態にあるといわれています。物価高騰の影響もあり、経済的な格差拡大が加速しています。そのような状況下のこどもたちは学校外の学びや体験の機会が不足になりがちです。いわゆる「体験格差」が生まれます。またコミュニケーション不足により人間関係等の不適応が増加し、小中学校の不登校児童生徒数は年々増加傾向にあります。SNSの普及も子どもたちの生活に大きな影響を与えています。 家庭内においても生活環境の変化や親子関係をめぐる問題等により那珂川市も例外ではなく、地域での子どもや保護者の支援、見守り、居場所作りが必要となっています。
事業の必要性	子ども支援は親支援、家庭支援でもあり、少人数での関わりや個別サポートを必要とすることが多いものです。子ども達にとって地域の中の「心の居場所」であり、保護者支援もできる「ゆめ広場」事業は必要とされています。
事業の目標	「ゆめ広場」で学習・生活支援を行なうことで、子ども達に寄り添い、心の安定と自己肯定感を高めることで、自立の援助に努め、地域の大人の関わりにより子ども達の困り感を軽減していくこと、一人でも多くの子どもが不登校や悩みを解消し、自分の進路や将来に向け夢や希望を持つことを目指します。
8年度の内容	・こども応援課、生活福祉課、教育委員会、地域等に「ゆめ広場」の主旨や活動を広げていく。 ・「生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援」事業を受け、不登校や生活困窮世帯の子どもの対象に学習の場を提供。大学生スタッフや高校生スタッフとの関わりは進路を考える小中学生にとって貴重な時間となる。 - 学習支援：毎週火曜日 18時30分～20時30分(中学生以上) - 毎週土曜日 10時～12時(小学生以上) - 生活支援：第2・3月曜日 16時30分～18時 - 第1・4金曜日 16時30分～18時 - 第4土曜日 12時00分～13時00分(まなびや食堂) - 子ども達が行きやすい環境を作り、「心の居場所」とする。 ・子どもや保護者の相談を受け必要であれば関係機関につなげる。 ・第4土曜日 12時～13時00分はまなびや食堂を開催。 ・月1回資源物回収を行ない、その収益は居場所でのイベントやおやつ等の活動費に充てる。 ・地域の祭りへの出店で、住民の方々との交流を図る。
事業の効果及び展望	学校や家庭とは違う「ゆめ広場」での時間は、子ども達の心の居場所であり、活力となります。相談日を設け、課題解決に向けたサービス等の情報提供も行なっていきます。

NPO 法人 絆・なかがわ

代表理事 森 千春